

京都府におけるソウシチョウの繁殖初確認

堀本尚宏

〒601-1254 京都市左京区八瀬野瀬町267-328

ソウシチョウ *Leiothrix lutea* は1980年前後より九州、近畿、関東という互いに離れた3地域で急激に個体数を増やし(東條 1994)、これまでに22都府県で分布が確認されている(Eguchi & Amano 2004)。ソウシチョウの原産地はパンジャブ東部、インド西部から中国南部、ベトナム北部(日本鳥類目録編集委員会 2000)であり、日本には飼鳥として輸入され、個人家庭からの逸出や貿易業者の放鳥などにより侵入したと考えられている(江口 2002)。本種が優占種になることで、群集構造の著しい変化(Tojo & Nakamura 2004)や、捕食動物の誘引による在来種への負の影響(Amano & Eguchi 2002)などが懸念されている。こうしたことから、2005年6月1日より施行された「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」においては、ソウシチョウは特定外来生物に指定され、輸入や販売、譲渡、飼育や野外への放鳥等の行為について規制されている。

京都府においては2000年以降、旧北桑田郡京北町を含む京都市で本種が目撃されるようになり、その後は目撃頻度や目撃個体数の増加傾向がみられている(附表1)。こうした中、京都府においてはじめてと思われる、ソウシチョウの繁殖を確認したのでここに報告する。

京都市の市街地が広がる京都盆地の北20kmに位置する京都市左京区大原大見町で、ソウシチョウの繁殖が確認された。当該地域は、周囲を標高700~900mの山地に囲まれた標高600m前後の小盆地である。谷部は放棄水田が広がり、ススキ *Miscanthus sinensis* やスゲ類、ハンノキ *Alnus japonica* が生育し、それらを囲む山地には高木層としてコナラ *Quercus serrata*、ミズナラ *Q. crispula*、クリ *Castanea crenata*、イヌブナ *Fagus japonica* などが多い夏緑広葉樹林やアカマツ *Pinus densiflora* が優占する常緑針葉樹林が発達している。

2006年7月31日にソウシチョウの卵殻片が少し残った、巣立ち後もしくは繁殖途中で失敗したと考えられる巣を1か所で確認した。2006年8月14日にはソウシチョウの幼鳥1羽を確認するとともに、産卵されている巣を2か所、巣立ち後もしくは途中失敗の巣を1か所、造巣途中と思われる巣を1か所で確認した。産卵を確認した巣2か所の卵数は4個と2個であった。卵はやや光沢のある白色の地に赤褐色の小斑があった。

今回確認した5か所の巣の場所は、放棄水田や谷筋に接する山裾にある、山道の脇や昔は山道だったが今はその跡を植生がおおったと思われる平坦地の脇であった。これらの場所はおもに、コ

2007年4月27日 受理

キーワード: 京都府, 繁殖記録, 外来生物, ソウシチョウ



図 1. ソウシチョウの巣が確認された環境。
Fig. 1. Nesting habitat of Red-billed Leiothrix.



図 2. ソウシチョウの巣。
Fig. 2. A nest of the Red-billed Leiothrix.

ナラ、クリ、リョウブ *Clethra barvinervis* などが生育し、林床にはチュウゴクザサ *Sasa veitchii f. tyugokensis* が密生していた(図 1)。いずれの巣も林床に密生した高さ 1.5m前後のチュウゴクザサ群落内の、地表から 1m前後のところにあつた。7月31日に確認した巣は、おもにササ類の枯葉と樹皮でつくり、細い小枝や茎、コケ類、羽毛が少量混ざっていた。巣の外径は約11cm、高さは約11cmの壺形または深い碗形をしていた。内径(産座)の直径は約 5.5cm、深さは約 5.5cmで、植物の根と思われる細い繊維状のものが網の目状に敷かれていた。巣は上部をササの数本の稈に絡めて、吊り下げられるような形で作られていた(図 2)。

産卵を確認した 2か所の巣について2006年 8月30日に観察を行なったところ、2卵あつた巣でヒナを確認した。巣の発見後にも産卵があつたとみられ、ヒナは 3羽であつた。ヒナには羽毛がほとんどなかったことから、ふ化後それほど日数は経っていないと思われた。4卵あつた巣は空になっており、繁殖の成否については確認できなかった。

今回ソウシチョウの繁殖を確認した地域では、2002年 8月23日にソウシチョウのさえずりを確認以来、毎年春季から夏季にさえずりを確認するようになった。きちんとした調査を実施していないため印象にすぎないが、ソウシチョウは2002年と2003年にはまばらに分布しており、生息数は比較的少なく思われた。2004年、2005年になると広い範囲で普通にさえずりが聞かれるようになった。営巣しているかどうかにも注目していたが、発見にはいたらなかった。今回繁殖を確認した2006年は山道脇で複数の巣を容易に発見することができた。このような状況から、生息数および営巣数がこの数年間に激増したことがうかがわれる。

今回営巣を確認した地域は林床にチュウゴクザサが密生していた。江口・増田(1994)によれば、

九州でソウシチョウが選好する環境はササ類を含む下生えの濃い森林であるとしている。また、ソウシチョウの密度が高い筑波山山頂周辺の落葉広葉樹林の下層にはスズタケ *Sasamorpha borealis* が繁茂しており (Tojo & Nakamura 2004), 営巣場所はほとんどがササの茂みであった (Amano & Eguchi 2002, Tojo & Nakamura 2004)。このようにソウシチョウの生息にはササ類の密生が深く関係していると考えられる。現在、京都府ではササ類の衰退が各地で発生しているが、それは一斉枯死およびニホンジカ *Cervus nippon* の増加にともなう食圧によると考えられている。今回ソウシチョウの営巣が確認された大原大見町においてはチマキザサの開花がはじまっており、ここでも林床のササが衰退する兆候がみられる。今後はササ類の衰退にともなうソウシチョウの生息状況の動向などにも注目したい。

天野一葉氏にはソウシチョウの鳴き声や営巣環境などについてご教示いただいた。赤木智香子氏には本稿執筆にご協力をいただいた。この場を借りて厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 江口和洋. 2002. 外来種ハンドブック 村上興正・鷲谷いづみ(編). pp.86. 地人書館, 東京.
- 江口和洋・増田智久. 1994. 九州におけるソウシチョウ *Leiothrix lutea* の生息環境. 日本鳥学会誌 43: 91-100.
- H.E. Amano & K. Eguchi. 2002. Nest-site selection of the Red-billed Leiothrix and Japanese Bush Warbler in Japan. *Ornithological Science*. 1: 101-110.
- H. Tojo & S. Nakamura. 2004. Breeding density of exotic Red-billed Leiothrix and native birds species on Mt. Tsukuba, central Japan. *Ornithological Science* 3: 23-32.
- K. Eguchi & H. E. Amano. 2004. Invasive bird in Japan. *Global Environmental Research* 8: 29-39.
- 日本鳥類目録編集委員会. 2000. 日本鳥類目録改訂第 6 版. 日本鳥学会, 帯広.
- 日本野鳥の会京都支部. 2000. 鶺鴒の目鷹の目-鳥だより. そんぐぼすと第 107 号. 日本野鳥の会京都支部, 京都市.
- 日本野鳥の会京都支部. 2003. 鶺鴒の目鷹の目-鳥だより. そんぐぼすと第 120 号. 日本野鳥の会京都支部, 京都市.
- 日本野鳥の会京都支部. 2004. 鶺鴒の目鷹の目-鳥だより. そんぐぼすと第 130 号. 日本野鳥の会京都支部, 京都市.
- 日本野鳥の会京都支部. 2005. 鶺鴒の目鷹の目-鳥だより. そんぐぼすと第 135 号. 日本野鳥の会京都支部, 京都市.
- 日本野鳥の会京都支部. 2006. 鶺鴒の目鷹の目-鳥だより. そんぐぼすと第 141 号. 日本野鳥の会京都支部, 京都市.
- 東條一史. 1994. 筑波山塊におけるソウシチョウ *Leiothrix lutea* の増加. 日本鳥学会誌 43: 39-42.

The first breeding record of the Red-billed Leiothrix
in Kyoto Prefecture, western Japan.

Naohiro Horimoto

267-328, Yase Nose-cho, Sakyo-ku, Kyoto 601-1254, Japan

The Red-billed Leiothrix *Leiothrix lutea* is an exotic species in Japan. The population has increased rapidly in the wild and the range has expanded considerably since the early 1980s.

On 31 July 2006 I discovered a nest of this species with some pieces of eggshells, which had either been deserted or had fledged successfully, in Ohara Omi-cho, Sakyo-ku, Kyoto City. On 14 August 2006 I detected in the same area a juvenile Red-billed Leiothrix as well as four nests, two of which held eggs. This is the first breeding record of the species in Kyoto Prefecture, western Japan.

Keywords: Kyoto Prefecture, breeding record, exotic species, Red-billed Leiothrix

付表 1. 京都府における今までのソウシチョウの観察例.

Appendix 1. Observations of the Red-billed Leiothrix in Kyoto prefecture.

観察日 Date	個体数 No. of birds	観察場所 Observation site	観察者 Observer
2000年10月 7日 Oct. 7 2000	5+	八丁平(京都市左京区) Hattyou-daira (Sakyo-ku, Kyoto)	片岡靖 Yasushi Kataoka
2002年12月 3日 Dec. 3 2002	4	京都御苑近衛池(京都市上京区) Konoe-ike in Kyoto Gyoen (Kamigyo-ku, Kyoto)	斉田益み Masumi Saita
2004年 7月 2日 Jul. 2 2004	1	京都市西京区 Nishikyo-ku, Kyoto	藤田進 Susumu Fujita
2004年 7月30日 Jul. 30 2004	15+	大見尾根(京都市左京区) Oomione (Sakyo-ku, Kyoto)	澤島哲郎 Tetsuro Sawajima
2005年 6月20日 Jun. 20 2005	2	芹生勢竜天満宮付近(京都市右京区) Seryou Tenmangu in Seryou (Ukyo-ku, Kyoto)	澤島哲郎・昌子 Tetsuro & Masako Sawajima
2006年 5月30日 May. 30 2006	20+	大見尾根(京都市左京区) Omione (Sakyo-ku, Kyoto)	澤島哲郎・昌子 Tetsuro & Masako Sawashima